

家庭科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 調理実習は、2人ペアで行うことで、各自が調理の手順を把握し、調理の一連の過程で起こる食材の変化等に気付くことができた。また、調理に関する基礎的・基本的な技能を身に付けることができた。
- 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁についての学習では、体験的な活動を通して、米、味噌、だしなどについて深く知ることができた。
- 裁縫では、動画を見たり、繰り返し練習したりすることで基礎縫いが定着した。ミシン縫いの学習では、保護者にも指導ボランティアとして入ってもらい操作や製作実習の補助をお願いした。基礎的・基本的な技能が定着したことで、その後の作品作りをスムーズに行うことができた。
- タブレットや実物投影機などのICT機器を活用し、作業の手順や方法を示したり、映像で確認したりすることによって、より確実な理解につながった。
- 布を用いた製作については、能力差が見られた。個々が工夫する内容や製作過程の時間配分を考える必要があった。

思考・判断・表現

- 5年生は総合の時間で育てた米をおいしく炊くためのポイントを考えることができた。6年生では献立の立て方を学習した上で、給食の献立を考える学習を行った。栄養教諭にも授業に入ってもらうことで、より具体的に考え取組むことができた。
- 6年生の袋物の製作では、基本のトートバッグの作り方を理解し、布の色や持ち手の長さを変えたり、物の出し入れがしやすいようにまちを作ったりするなど、使う場面を考えて製作することができた。
- 家族や地域の人々との関わりについては、家族と過ごす時間を増やすための工夫について考えたり、発言できたりする児童が多かったが、自分事として実践に移せる児童が少なかった。どのように家庭生活に直接結びつけていくのか方策を考える必要があった。

主体的に学習に取り組む態度

- 各調理実習後に家庭で振り返りを兼ねて、実習と同じように家で調理をしたという児童が多くいた。実際に調理の流れを把握し、再度やってみることで調理の基礎・基本を身に付けることができた。
- 裁縫の作品作りでは、アップリケや刺しゅうなどをして、生活の中で便利に楽しく使えるよう工夫することができた。

2 授業改善プラン

高学年		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 手縫いやミシン縫いの仕方が分かり、それらを使った目的に応じた縫い方を理解するとともに、それらの作業に必要な用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできるようにする。 - 家族とのふれあいや団らんの大切さについては、食事や家庭の仕事などを共にしたり、あいさつや会話を通してコミュニケーションを図ったりすることで家族の団らんが家族とのつながりを深める重要な生活行為であることを理解できるようにする。	- 製作については、作品を仕上げるための製作手順や手縫いやミシン縫いによる縫い方などについて問題を見だし、課題を設定できるようにする。試し縫いをしたり、身に付けた技能を生かした縫い方を検討したりするなど、計画に合わせて効率よく製作できるようにする。 - 家族とのよりよい関わりについては、家族との触れ合いや団らんについての問題を見だし、課題を設定できるようにする。家族との触れ合いや団らの時間を生み出すために自分が協力できることなどについて考えられるようにする。	- 手縫いやミシン縫いの基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるよう繰り返し練習したり、友達と作り方を比較したりして、工夫し創造しようとする態度を育てる。 - 家庭生活を支える家族の一員として、生活をよりよくしようとする意識をもち、家庭生活を工夫し、家族と協力して生活していこうとする態度を育てる。